

# 08年夏山北海道山行報告書

期間 08年8月9日(土)~17日(日) 8/9、13、16、17は移動日

目的: 百名山を登る

山名: 雌阿寒岳・雄阿寒岳・斜里岳・羅臼岳・十勝岳・幌尻岳

メンバー: CL 竹内幹雄、SL 塚本英吾、渡辺勝利、津田廣一

## 10日(日)晴れ

3:40 起床	10:45 登山口(滝口)
5:35 登山口(雌阿寒温泉)	12:10 895m
6:35 四合目	13:20 五合目
7:50 雌阿寒岳頂上(1499m)	14:25 雄阿寒岳頂上(1370m)
8:50 五合目	15:50 四合目
9:45 登山口(雌阿寒温泉)	17:20 登山口(滝口)
車で滝口へ移動する	

### 行動記録

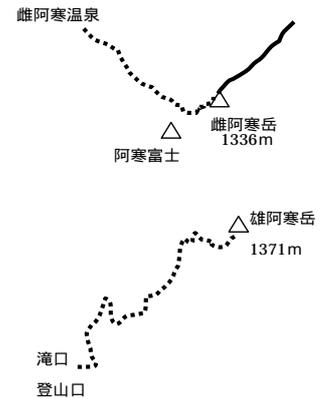


オンネトー野営場



木の根が露出している樹林帯

前日に名古屋を飛行機で出発、帯広空港から車で移動してオンネトー野営場にテント泊。早朝、雌阿寒温泉にある登山口から雌阿寒岳を目指して登り始める。木の根が露出している針葉樹林の中を進んで行くとやがてハイマツ帯に入りさらに進むと火山礫の登山道となる。ガスがかかっていて景色はまったく見えない。時折硫黄の臭いが漂ってくる。やがて火口の外輪に着きそこからすぐに雌阿寒岳の頂上に到着した。ガスで景色が見えないのが残念である。しばらく休憩した後、登ってきた道を戻り登山口に下山した。その後、雄阿寒岳の麓、滝口に車で移動、登山口から登り始める阿寒湖の岸边を進むと太郎湖、そして次郎湖の標識がでてきた。針葉



樹林の中を延々と歩いていく。やがて傾斜が増してくる。樹林を抜けてようやく展望の良い五合目に出ると阿寒湖を眼下に雌阿寒岳が見えてくる。七合目ではハイマツ帯となり展望が大きく開けてくる。九合目を過ぎてひと登りすると頂上についた。天気よく展望を楽しむことができた。朝方に登ってきた雌阿寒岳の頂上付近は雲に覆われている。しばらく行動食を食べながら休憩する。そして、登ってきた登山道を引き返して下山した。登山口に下りたのは夕方になった。この後、阿寒湖温泉にある公衆浴場に入りちょっと熱めの温泉につかり汗を流して夕食を食べてゆっくりした後、車で斜里方面に移動した。そして途中にある道の駅に車を置き、付近の空き地にテントを立て早朝まで寝ることにした。そして翌朝、斜里岳の麓にある清岳荘に向かった。雌阿寒岳、雄阿寒岳と予定通り一日で登ることができてよかった。また昨日今日と麓にある温泉につかることができ、長い一日をゆっくりと楽しむことができました。公衆浴場では洗濯機を借りて下着の洗濯をさせてもらうことができました。(竹内 記)



雄阿寒岳頂上



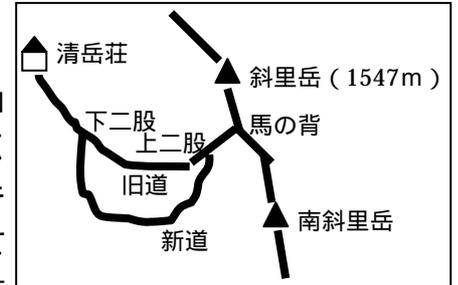
雌阿寒岳頂上

## 8月11日(月) 快晴

3:30	起床	9:05	馬の背 一本(20分)
4:00	道の駅(摩周温泉)発	9:40	斜里岳山頂(1547m)(40分)
5:20	清岳荘駐車場 着	11:00	上二股分岐 一本(5分)
5:50	清岳荘登山口 出発	11:50	ピーク(展望良好)
6:50	下二股分岐 一本(15分)	12:10	熊見峠 一本(10分)
8:30	上二股分岐(8合目)	13:05	下二股分岐 一本(10分)
9:00	9合目	14:00	清岳荘登山口 下山

### 行動記録

3時半起きで、さっさとテントを片付け、朝食を軽く入れて出発。斜里の登山口を目指して車を走らせる。今日は晴れの予想で気分も上々。次第に明るくなり、朝焼けにピンクに染まった斜里が見え出した。気分も高揚し、ウキウキしてくる。登山口である清岳荘前に到着し、登山靴に履き替え、身支度をして5時50分に出発。林道をしばらく行くと沢が現れ、沢沿いに樹林帯の道を進む。早くも小さな渡渉を、繰り返す。樹林帯の下の沢に沿い、進むので全く汗もかかず、快適だ。快調に1時間歩き仙人洞も過ぎ、下二股の新道との分岐近くで一本。朝食兼行動食のおにぎりを腹に入れる。沢道の旧道を進むと睡蓮の滝、羽衣の滝、方丈の滝と連続して滝が現れる。又、小さな渡渉の連続だ。ガイドブックにも“沢登り気分を味わえる”とあったが、登山靴ではあるが、沢登りそのものだ。さらに見晴の滝、七重の滝、霊華の滝、竜神の滝と連続す



朝焼けの斜里岳



竹さん渡渉



沢登り??



馬の背より斜里岳を望む



北海道3座目だぞ~

る滝を楽しんでいる内に上二股の分岐(8合目)に着いた。全く疲れを感じていないので、さらに登る。水が涸れ始め、急登が始まった。暑さを感じ、汗をかきながら20分ぐらいもがいている内に9合目を過ぎ、馬の背がひょっこり現れた。ここまでくれば、頂上はもらったと大休止。バナナ等の行動食を食べている内にガスがもくもくと沸いてきて、あっという間に斜里の頂上を隠してしまった。登りきった直後に写真を撮っておいて良かったと思う。ゆっくり休憩し、頂上アタックへ。あっけなく、15分で頂上へ。皆で握手、記念写真を撮った。ガスっていない方の眺望と他の登頂者との会話を楽しんだ。帰路は、新道の尾根歩きで斜里を名残見しながら下る。尾根上のピークから、斜里岳・南斜里岳が大きく、美しく見えた。長い長いアップダウンを繰り返した後、熊見峠からは一気に急坂を下る。一寸油断すると滑って痛い目にあう。慎重に慎重にと下り、膝が悲鳴を上げそうになる頃、やっと下二股分岐に着いた。一本取って元気を取り戻し、一気に14時に清岳荘登山口まで下山した。

### (感想)

天候にも恵まれ、快適な山登りを体験できた。旧道は沢登りそのものと言えそうで、非常に面白い変化に富んだ山だった。機会があれば、又、登ってみたい。(津田 記)

## 8/12日(火)晴れ

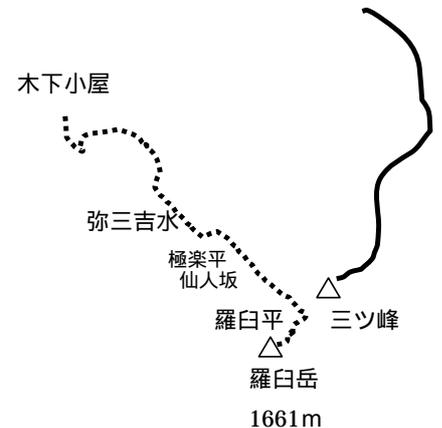
3:00 起床	8:55 羅臼岳頂上 (1661m)
4:00 登山口 (木下小屋)	10:20 羅臼平
4:42 オホーツク展望台	10:30 銀冷や水
5:40 弥三吉水	13:20 登山口 (木下小屋)
6:45 羅臼平	温根湯温泉へ車で移動

### 行動記録



羅臼平から見た羅臼岳

前夜に木下小屋に泊まり、早朝3:00起床の4:00出発となった。登山口は小屋のすぐ横で登山者名簿に記帳して出発する。樹林帯の中を進む。急斜面のつづら折りの登りとなる。オホーツク展望を過ぎ



てやがて弥三吉水の水場に着く。ここでおいしい水を飲んで休憩する。ここを過ぎると平坦な道がしばらく続く極楽平にでる。さらに進むと急斜面の仙人坂を登り、高度を上げていくと銀冷水の水場にでる。ここから大沢の沢筋へ入り登りきったところで展望が開けてくる。羅臼平に到着である。ここで休憩をして景色を眺めると、一面に広がるハイマツの奥に羅臼岳の溶岩ドームがどっしりと構えている。反対側には三ツ峰が見える。ここからはハイマツ帯の中を進んでいく。途中で岩清水のところで水が滴り落ちているのを置いてある柄杓で飲むと、これが冷たくておいしいのである。息を整え頂上に向かって歩き始めるがここから岩峰である。岩の急斜面を手足を使ってよじ登っていきとようやく羅臼岳の頂上にたどり着くことができた。ここでしばらく景色を眺めながら休憩する。オホーツクの海が青く見える。国後島方面は雲の中で見るができないのが残念である。下山は登ってきた道を下りていく。頂上直下の岩場を慎重に下る。そして、羅臼平、銀冷水、弥三吉水で休憩しながら登山口のある木下小屋に下りていく。下山後は登山口のすぐ近くにある無料の露天風呂に入り汗を流す。ゆっくりした後、車で温根湯温泉に向かう。途中で食事を済ませて温根湯温泉の民宿に素泊まりする。



羅臼岳



オホーツク海が見える

羅臼岳を良い天気の中で登れたので、景色をしっかりと楽しむことができました。前夜に泊まった木下小屋は露天風呂もあり小屋にも風情を感じました。小屋近くではキタキツネやエゾシカを見ることができ、北海道の自然を感じることができ、思い出に残る山行となりました。明日13日は移動日で山登りは休み。旭山動物園によって、白金野営場でテント泊です。

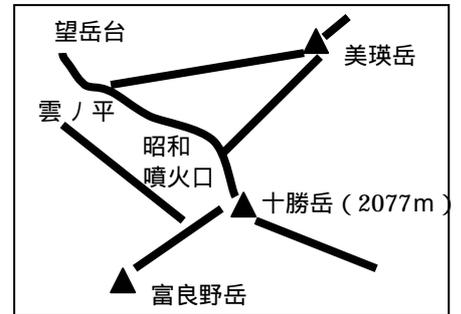
(竹内 記)

## 8月14日(木) 曇り後晴

3:00	起床	7:50	十勝岳頂上(2,077m)
3:30	国設白金野営場発	8:30	十勝岳山頂発
4:00	望岳台登山口 着	9:10	昭和噴火口(1,720m) 一本(15分)(晴)
4:25	望岳台登山口 出発	10:15	雲ノ平分岐 一本(10分)(キリの中)
5:20	雲ノ平分岐 一本(10分)	11:00	望岳台登山口 下山
6:40	昭和噴火口(1,720m) 一本(15分)	11:00	望岳台登山口 下山

### 行動記録

昨日のテン場の管理人さんの予想では雨。半ばあきらめていたが、目覚めると雨は降っていない。まだ暗い為、天候の状況はよく分からないが、まだ持ちそうである。幸運に期待し早々にテントを撤収、望岳台登山口へ向かう。望岳台駐車場で朝食を食べながら明るくなるのを待つ。周りがやや明るくなって身支度をし、4時25分に出発。望岳台はまだガスの中だ。歩くうちに周囲が明るくなっていくにつれ、十勝岳がその姿を見せてくる。朝焼けの美瑛の姿も美しい。1時間弱、歩く内に美瑛への分岐点である雲ノ平に達し、一本。水分を補給し、朝食の残り分を腹に入れる。火山特有のがれき登山道を一步、一步、滑ってずり落ちない様に歩を進める。何か、キリマンジャロのアプローチに似ているな~と思う。キリマンジャロと同様に、ポレポレと登る。頂上付近に噴煙が3本昇っているのが、はっきり見える。今日の天気も、何故か？良さそうだ。つづら折りの急坂の道をやや喘ぎながら高度を稼ぐ。1時間一寸、歩いたところで平坦な昭和噴火口に着き、一本。行動食をしっかり食



ガスの望岳台



朝焼けの美瑛



十勝を目指し



十勝の噴煙

べ、水分を十分に補給し元気を注入。十勝が段々と近づき、再び急登となる。最後の頑張りと一步、一步、喘ぐうちに山頂に着く。この山旅で5座目の頂上である。皆としっかりと握手を交わす。頂上は雲海を眼下に見て四方の山々を見渡せる。富良野の山が、緑も綺麗に見える。眺望を十分に楽しみ、帰路につく。下りは足取りも軽く、どんどん進む。昭和噴火口辺りでは晴れに変わり、雲ノ平付近はガスの中である。11時に無事、望岳台登山口へ下山した。



しばし一本



十勝岳山頂

(感想)

前回(10年ぐらい前)、北海道へ来た時、十勝だけ登れなかった。いつか？登ろうとっていて、今回願いが叶いました。天候にも恵まれ、ラッキーの連続です。十勝万感ますます、北海道が好きになっちゃた！ありがとう！

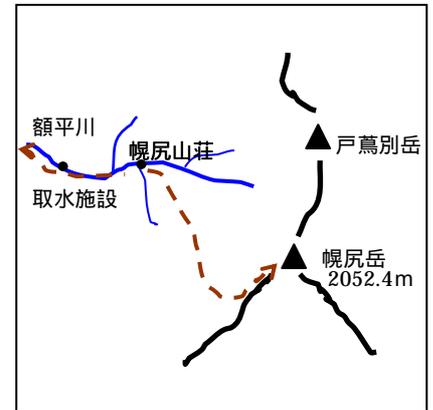
(津田 記)

## 8月15日(金) 曇り後雨

2:00	起床	< 同ルートを下山 >
2:50	平取町振内ルート登山口駐車場発	12:30 命の水
4:40 ~ 4:50	北海道電力取水施設	13:30 ~ 14:10 幌尻山荘
6:50 ~ 7:20	幌尻山荘	15:40 北海道電力取水施設
8:55 ~ 9:05	命の水	17:20 平取町振内ルート登山口駐車場着
10:40	新冠ルート分岐	18:30 平取町振内に戻り民宿「チセ」に宿泊
10:50 ~ 11:15	幌尻岳(2052.4m)	

### 行動記録

昨日は十勝岳に登り白金温泉の露天風呂「吹上」で汗を流した後、富良野経由でR237を南下し平取(ピラトリと読む)町振内に着く。ここにあるニセウ・エコランドオートキャンプ場の管理人の話では今晚から天候が崩れそうだと言う。それではと振内の交番で聞いてみると人の良さそうなおじさんが出てきてやっぱり同じ様なことを言う。その上、雨が降ると額平川が増水して徒渉ができず3、4日の缶詰も覚悟しなければならぬとか、途中の林道はがけ崩れしそうだとか、この7月には愛知県の人か流されて遭難したとかなかなか物騒なことをおっしゃる。最後はおきまりの「貴方達の賢明な判断にお任せします」とのご託宣を受ける。今山行の最大の目標である「幌尻岳」の麓まで来ながら、このまま何も行動を起さず引き下がるわけには行かない。雨が降り始めたらその状態を判断し、引き返すことを前提として、とにかく幕営できる登山口の駐車場まで入ることにして行動を開始した。(早々就寝)



明ければ15日、テントを打つ雨音がと思いきや、その気配は全くない。今日のうちにピストンすればなんとかなりそうである。午前2時に起床、3時前にヘッドランプを頼りに塚本さんを先頭に出発。夜道はキリマンジャロ登山で慣れている面々、林道をチャブ、チャブ(早い)ペースで夜の白み始める頃には北電の取水施設に至る。ここからが本日の核心部である額平川の遡行となる。4名はそれぞれの沢登りの姿(塚本さん;短パン・タイツに運動靴、竹内さん;運動靴、津田さん;溪流足袋、渡辺;そのまま)で入沢。まず右岸の高巻きをしてからすぐに左岸に徒渉。沢幅は10m程度で膝下くらいの水量であるが、心地よい冷たさの水温である。天候もまだ安定しているし、こうなると沢登りも実に楽しい。まるで水遊び感覚でジャブジャブと右に左に徒渉を繰返しながら高度を稼ぐ。30数回の楽しかった徒渉も最後に左岸に渡ると幌尻山荘に到着。結局、徒渉では水深では膝上、沢幅では10mくらいが本日の最大級であった。山荘は三角屋根のなかなかしっかりした造りの瀟洒な建物で平取山岳会が町から委託されて管理しているらしい。我々が着いたのが早かったせいか、今日の雨予想で昨日のうちに下山した人が多かったせいか小屋は閑散としていたが、小屋番の山岳会員は「今日は下山するんだ」と嬉しそうにいろいろと話をしてくれた。

ここからはいきなり山腹の急登となる。水遊びを楽しんだ後の報復のような嫌になるくらいの急登の連続でポレポレ(ゆっくり)ペースでしかし確実に歩を進めるも命の水を過ぎると漸く緩やかな登りとなり、カールに沿って花畑を見ながら痩せ尾根を稜線伝いに大きく左に回りこむと新冠からのルートと合流する。ここまできると頂上は指呼の間である。山頂はなだらかな岩の何の変哲もないものではあるが、なかなか来ることのできない北海道の山旅の最後を締めくくるに相応しい幌尻岳への登頂に全員で固い握手を交わす。

しばらく頂上で佇んだ後、名残を惜しみつつ頂上を後にする。よくこんな急なところを登ってきたもんだと思いつつぐんぐん下る。途中からガスから霧雨になり、ほどよい冷却水で頭を冷やしながら足ががくがくしだす頃、幌尻山荘に降り着く。小休後、この頃から雨もちょっと強くなり始めたので合羽の上着とザックカバーを着け、沢を下る。沢水は雨の影響をそれほど受けず、水量もやや増し程度なので問題なく、徒渉を繰返し取水施設へ。この雨の中をツアー客と思われる中高年登山者が続々と入山してくる。その数の多さに日本100名山の中での人気の高さを知ると同時に天候不順で身動きが取れなくなった時にどうするんだろうと他人事

ながら心配しつつ先を急ぐ。

雨脚の強くなってきた中を途中の林道のがけ崩れを恐れながら（事実、ドンと音がしたので振り向くと渡辺の歩いた後ろに握りこぶし大の落石があった）漸く、駐車場まで辿り着いた時は安全登山ができた安堵感で感無量であった。

本日は実に14時間30分という長い行動時間を掛けただけの価値のある面白い山行であった。

その後、平取町に戻り、二風谷（ニブタニ）の民宿「チセ；アイヌ語で家の意」で今回の山旅は大団円となった。（渡辺勝 記）



額平川  
我々を優しく出迎えてくれた



額平川 四の沢出合い  
滝が掛かる四の沢を横目に右の本谷を遡行



額平川徒渉  
楽しそうな竹内さん、津田さん



幌尻山荘  
頑丈できれいな山小屋



幌尻岳遠景  
木の間からの遙かなる幌尻岳



幌尻岳頂上  
ゲー、ゲー、ゲーの塚本さんと